

⑧
フィルム

聖徒たちと歩む聖書 ~16~
アブラハム その8

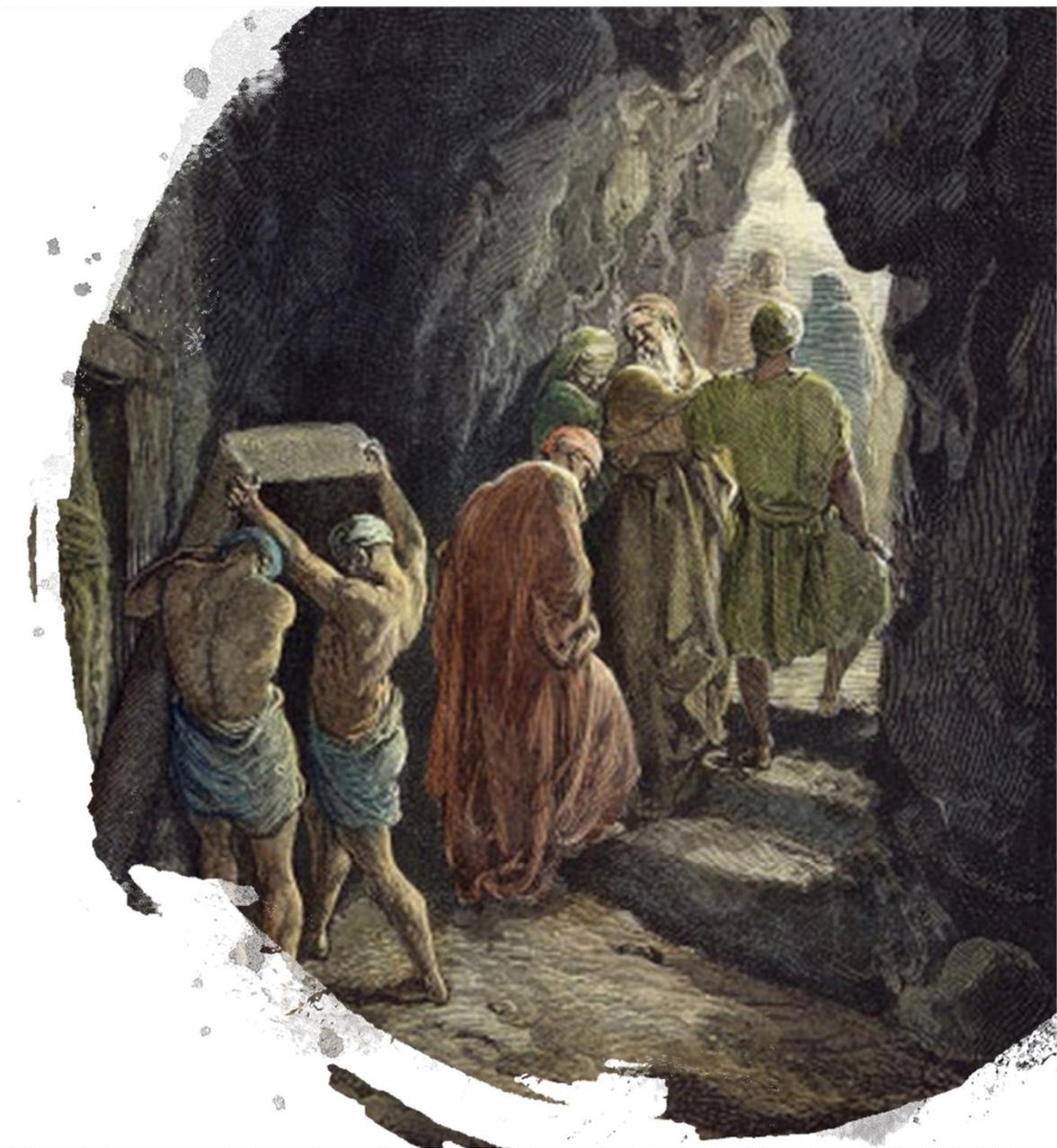
「御国を待ち望みつつ」

創世記23~25章 アブラハムの終活

【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
- I. 親族の消息
- II. サラの死
- III. イサクの結婚
- IV. アブラハムの子孫
- V. アブラハムの死
- VI. まとめと適用

アブラハムの生涯に学ぶ
アブラハムの信仰とは？





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン
契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【アブラハム契約とは】

■聖書全体を貫く大原則

神が一方的に結んだ無条件契約が、世界を導く。

【三つの主な条項】

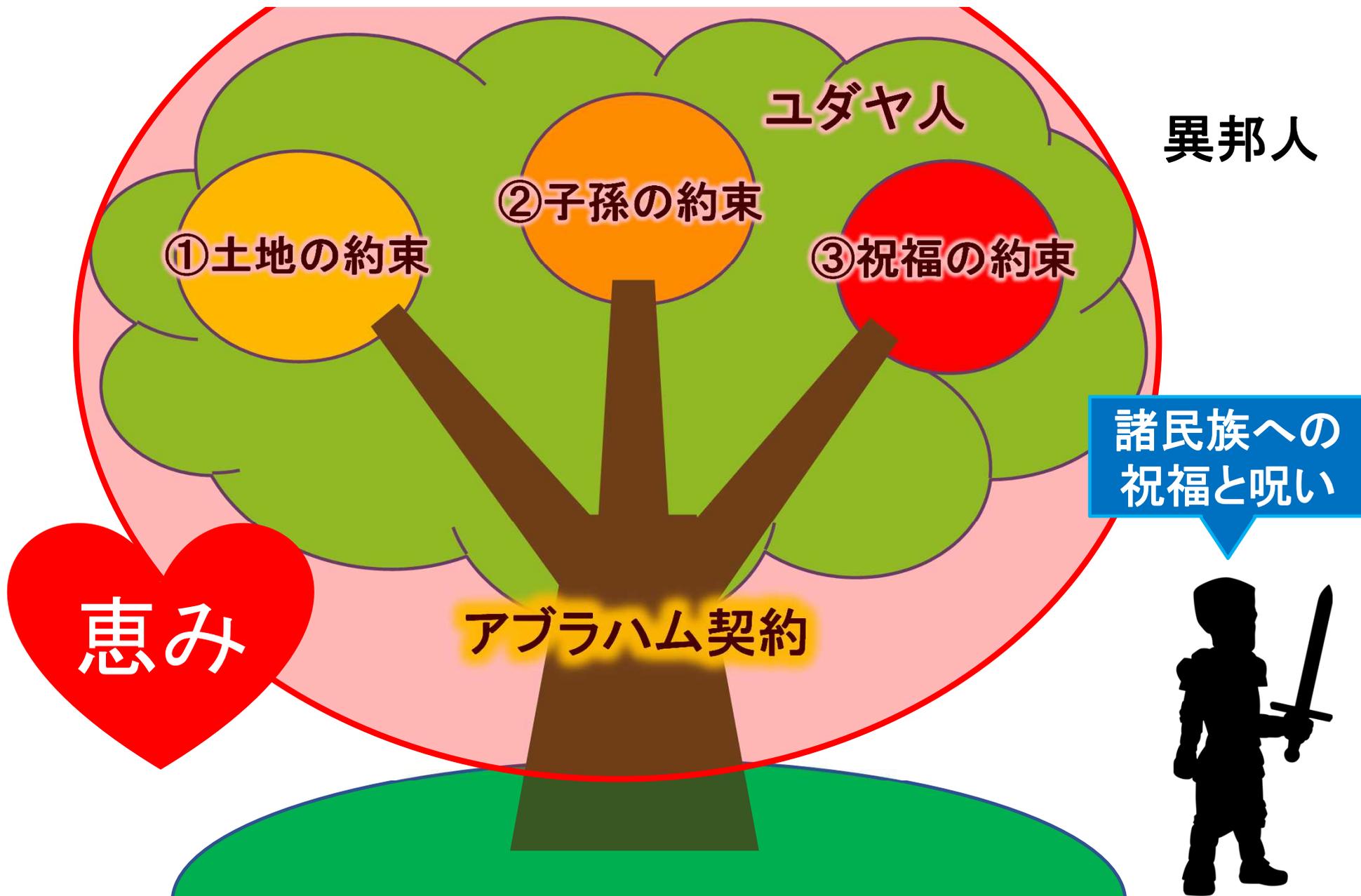
- ①子孫の約束 ...数えられないほど子孫を増やす。
- ②土地の約束 ...ナイル支流からユーフラテスまで。
- ③祝福の約束 ...子孫からメシアが誕生する。

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。(創12:3のみ)
例)エジプトでの出来事。ロトの奪還。

※しるし ...割礼



【アブラハム契約】



【アブラハムのイサク奉獻】

■ アブラハムは、神の呼びかけに従い、愛するひとり子イサクを神に捧げた。

■ 三つの頂点

- ① アブラハムの生涯の、信仰の到達点。
- ② 旧約時代の聖徒たちの信仰の極み。
- ③ 旧約聖書における、メシアの型の究極のもの。

■ アブラハムの信仰とは？

神の約束を信じ、イサクの復活を信じた。

■ 「主の山に備えあり」

究極の犠牲の子羊は、主イエス・キリスト。



アブラハムの死
175

イサクの結婚
140

サラの死
137

イサク奉獻
130

7
イシユマエル追放

イサク誕生
100

ゲラルドでの失敗

ソドムの滅亡

6
イサク誕生の予告
99

5
割礼の命令
99

イシユマエル誕生
86

4
子孫の祝福②「星」
契約締結
76

ロト奪還作戦

3
子孫の祝福①「砂粒」

ロトとの別れ

エジプトでの失敗

2
カナンで最初の礼拝
75

1
神の召命・約束
70

【アブラハムの生涯】

I. 親族の消息



創世記22:20~24



【親族の消息】 創22:20～24

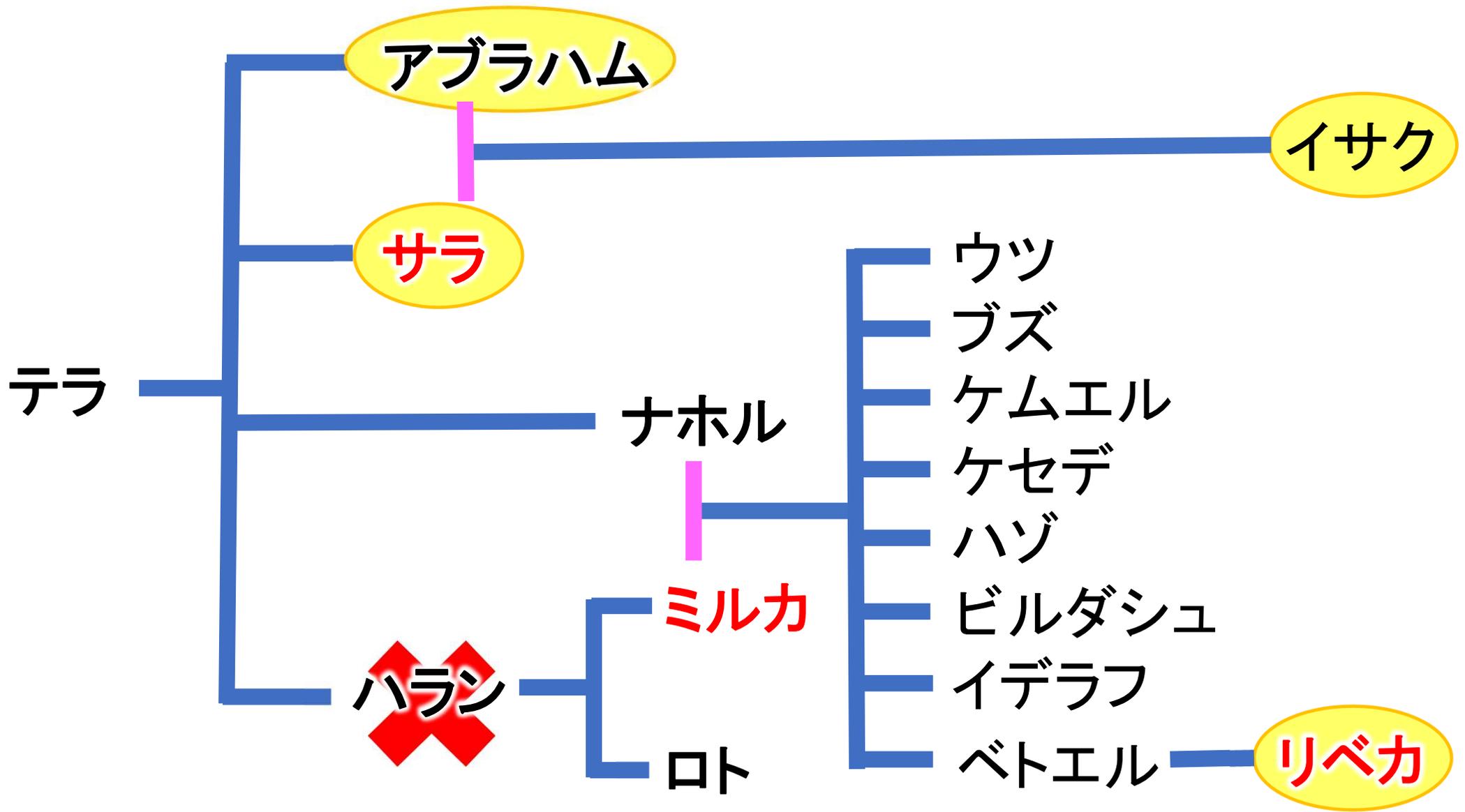
これらの出来事の後、アブラハムに次のことが伝えられた。

「ミルカもまた、あなたの兄弟ナホルに子どもを産みました。

すなわち長男がウツ、その弟がブズ、それにアラムの父であるケムエル、次にケセデ、ハゾ、ピルダシュ、イデラフ、それにベトエルです。」

ベトエルはリベカを生んだ。ミルカはこれら八人をアブラハムの兄弟ナホルに産んだのである。

レウマというナホルのそばめもまた、テバフ、ガハム、タハシュ、マアカを生んだ。



【アブラムの旅路】

総行程 約2,000km
5~6年かけて？

■ハラン
父、兄弟ナホルと別離

■ユーフラテス

アブラムがハランを出たときは、
七十五歳であった。創世記 12:4

ダマスコ

■シェケム

ハビロン ■バビロン

■ベエル・シェバ

■ウル



Ⅱ. サラの死

創世記23:1～20



19世紀のヘブロン

【サラの死】 創23:1~2

サラの一生、サラが生きた年数は百二十七年*であった。

サラはカナンの地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来てサラのために嘆き、泣いた。

* 聖書に死んだ歳が記された唯一の女性。

■ 別居していたのは、サラの療養のため?!

■ アブラハム137歳の時、

イサク奉獻から7年後。



【アブラハムの申し出】 創23:3

それからアブラハムは、その死者のそばから立ち上がり、ヘテ人たちに告げて言った。

23:4「私はあなたがたの中に居留している異国人ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば私のところから移して、死んだ者を葬ることができるのです。」

23:5 ヘテ人たちはアブラハムに答えて言った。

23:6「ご主人。私たちの言うことを聞き入れてください。あなたは私たちの間にあって、神のつかさです。私たちの最上の墓地に、なくなられた方を葬ってください。私たちの中で、だれひとり、なくなられた方を葬る墓地を拒む者はありません。」



【交渉の席へ】 創23:7

そこでアブラハムは立って、その土地の人々、ヘテ人にていねいにおじぎをして、彼らに告げて言った。「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたのおこころであれば、私の言うことを聞いて、ツォハルの子エフロンに交渉して、彼の畑地の端にある彼の所有のマクペラのほら穴を私に譲ってくれるようにしてください。彼があなたがたの間でその畑地に十分な価をつけて、私に私有の墓地として譲ってくれるようにしてください。」

エフロンはヘテ人たちの間にすわっていた。ヘテ人のエフロンは、その町の門に入って来たヘテ人たちみなが聞いているところで、アブラハムに答えて言った。



【アブラハムとヘテ人との交渉】

- 相手はカナンのヘテ人エフロン。
ヘブロン長老の一人か？
- 町の門。⇒ 町の行政、司法機関。
居合わせた人々 ⇒ 交渉の証人となる。

【中東流の交渉のポイント】

- 日本で言えば、京都流?!
「お茶漬けでも」 ⇒ そろそろ帰ってくださいね。
真に受けたら、大変!!
- 大きな取引ほど時間をかけて交渉し、
信頼に足る人物なのかを見極めていく!!



【交渉前の確認】 創23:11

「ご主人。どうか、私の言うことを聞き入れてください。畑地をあなたに差し上げます。そこにあるほら穴も、差し上げます。私の国の人々の前で、それをあなたに差し上げます。なくなられた方を、葬ってください。」

アブラハムは、その土地の人々におじぎをし、その土地の人々の聞いているところで、エフロンに告げて言った。「もしあなたが許してくださるなら、私の言うことを聞き入れてください。私は畑地の代価をお払いします。どうか私から受け取ってください。そうすれば、死んだ者をそこに葬ることができます。」



【アブラハムの決断】 創23:14～16

エフロンはアブラハムに答えて言った。
「ではご主人。私の言うことを聞いてください。銀四百シェケル*の土地、それなら私とあなたとの間では、何ほどのこともないでしょう。どうぞ、なくなられた方を葬ってください。」

アブラハムはエフロンの申し出を聞き入れ、エフロンがヘテ人たちの聞いているところにつけた代価、通り相場で銀四百シェケルを計ってエフロンに渡した。

* 時価の十倍から開始!!

⇒通常ならとんでもなく時間がかかる取引に!!

■ 即断したアブラハム。一刻も早くサラを葬るため

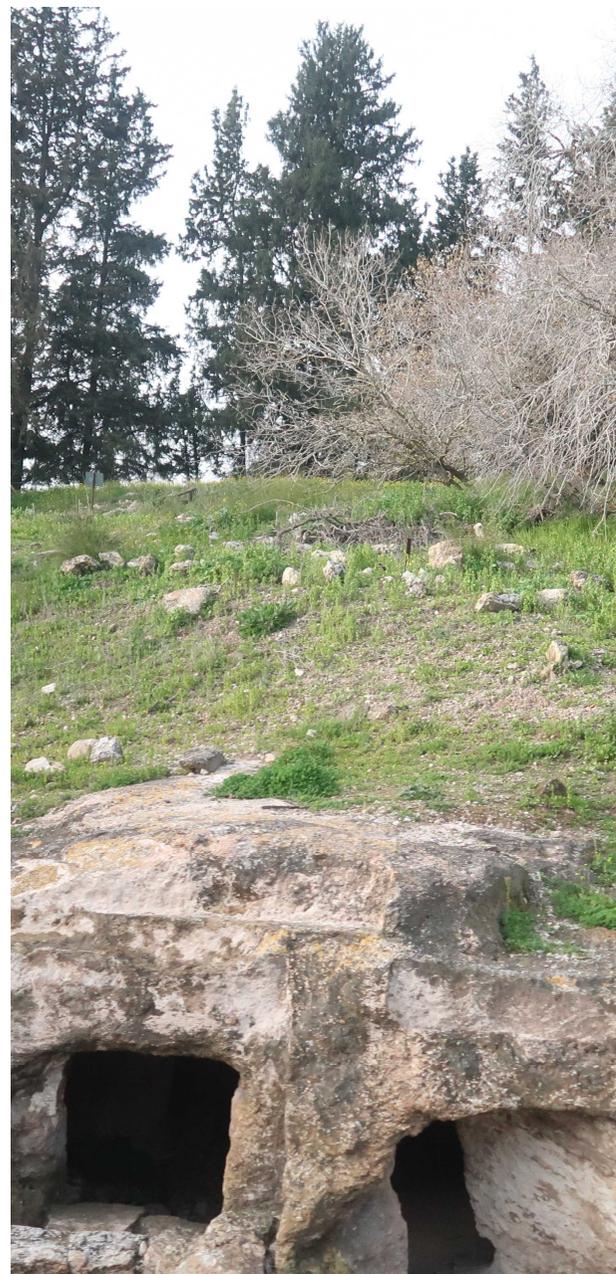


【はじめて得た土地に】創 23:17

こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロンの畑地、すなわちその畑地とその畑地にあるほら穴、それと、畑地の回りの境界線の中にあるどの木も、その町の門に入って来たすべてのヘテ人たちの目の前で、アブラハムの所有となった。

こうして後、アブラハムは自分の妻サラを、カナンの地にある、マムレすなわち今日のヘブロンに面するマクペラの畑地のほら穴に葬った。

こうして、この畑地と、その中にあるほら穴は、ヘテ人たちから離れてアブラハムの私有の墓地として彼の所有となった。





Ⅲ. イサクの結婚

創世記24:1～67

【アブラハムの生涯】

イサクの結婚
140

サラの死
137

イサクの奉獻
130

7 イシユマエル追放

イサク誕生
100

ゲラルドでの失敗

ソドムの滅亡

6 イサク誕生の予告
99

5 割礼の命令
99

イシユマエル誕生
86

4 子孫の祝福②「星」 契約締結
76

ロト奪還作戦

3 子孫の祝福①「砂粒」

ロトとの別れ

エジプトでの失敗

2 カナンで最初の礼拝
75

1 神の召命・約束
70

【アブラハム】 創 24:1~4

アブラハムは年を重ねて、老人になっていた*。

【主】は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。

そのころ、アブラハムは、自分の全財産を管理している家の最年長のしもべ*に、こう言った。「あなたの手を私のももの下に入れてくれ。

私はあなたに、天の神、地の神である【主】にかけて誓わせる。私がいっしょに住んでいるカナン人の娘の中から、私の息子の妻をめとってはならない。

あなたは私の生まれ故郷に行き、私の息子イサクのために妻を迎えなさい。」

* アブラハム140歳。

* ダマスコのエリエゼル(創15:2) ...「神は我が助け」



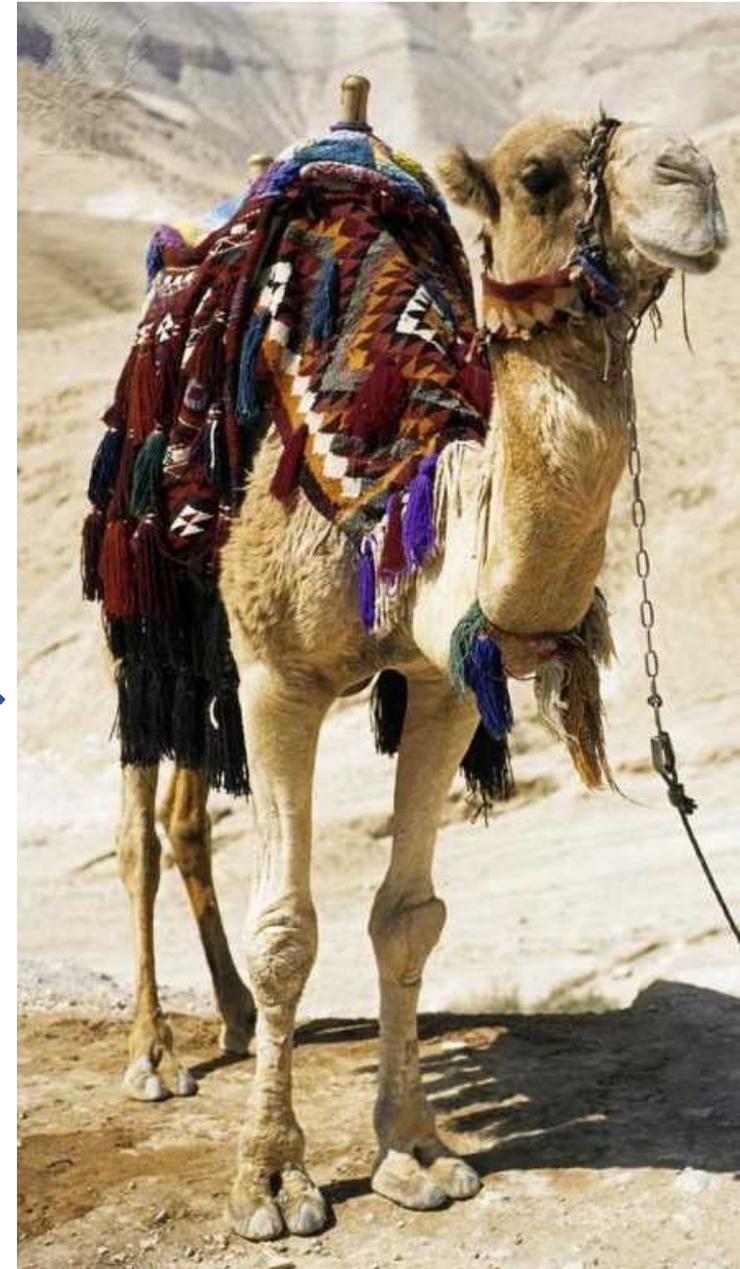
【アブラハム契約の神が導き手】 創 24:5~8

しもべは彼に言った。「もしかして、その女の人が、私についてこの国へ来ようとしなない場合、お子を、あなたの出身地へ連れ戻さなければなりませんか。」

アブラハムは彼に言った。「私の息子をあそこへ連れ帰らないように気をつけなさい。私を、私の父の家、私の生まれ故郷から連れ出し、私に誓って、『あなたの子孫にこの地を与える』と約束して仰せられた天の神、【主】は、御使いをあなたの前に遣わされる。あなたは、あそこで私の息子のために妻を迎えなさい。

もし、その女があなたについて来ようとしなないなら、あなたはこの私との誓いから解かれる。ただし、私の息子をあそこへ連れ帰ってはならない。」

- 結婚の申し出をするまでが、僕に与えられた使命!!
主が、僕を助け、導き、使命を果たさせてくださる!!



【ハランへ】 創24:9～10

それでもしもべは、その手を主人であるアブラハムのももの下に入れ*、このことについて彼に誓った。

しもべは主人のらくだの中から十頭のらくだを取り、そして出かけた。また主人のあらゆる貴重な品々*を持って行った。彼は立ってアラム・ナハライムのナホルの町*へ行った。

* 生殖器をつかみ、その子孫にかけて誓った。

* 花嫁料として

* ハランの町 ⇒ およそ720kmの道のり



【しもべの祈り】

■ 僕は、ハランの井戸で祈った。

“10頭のラクダにまで水を飲ませてくれる娘こそ、
イサクの嫁として主が定められた方。”

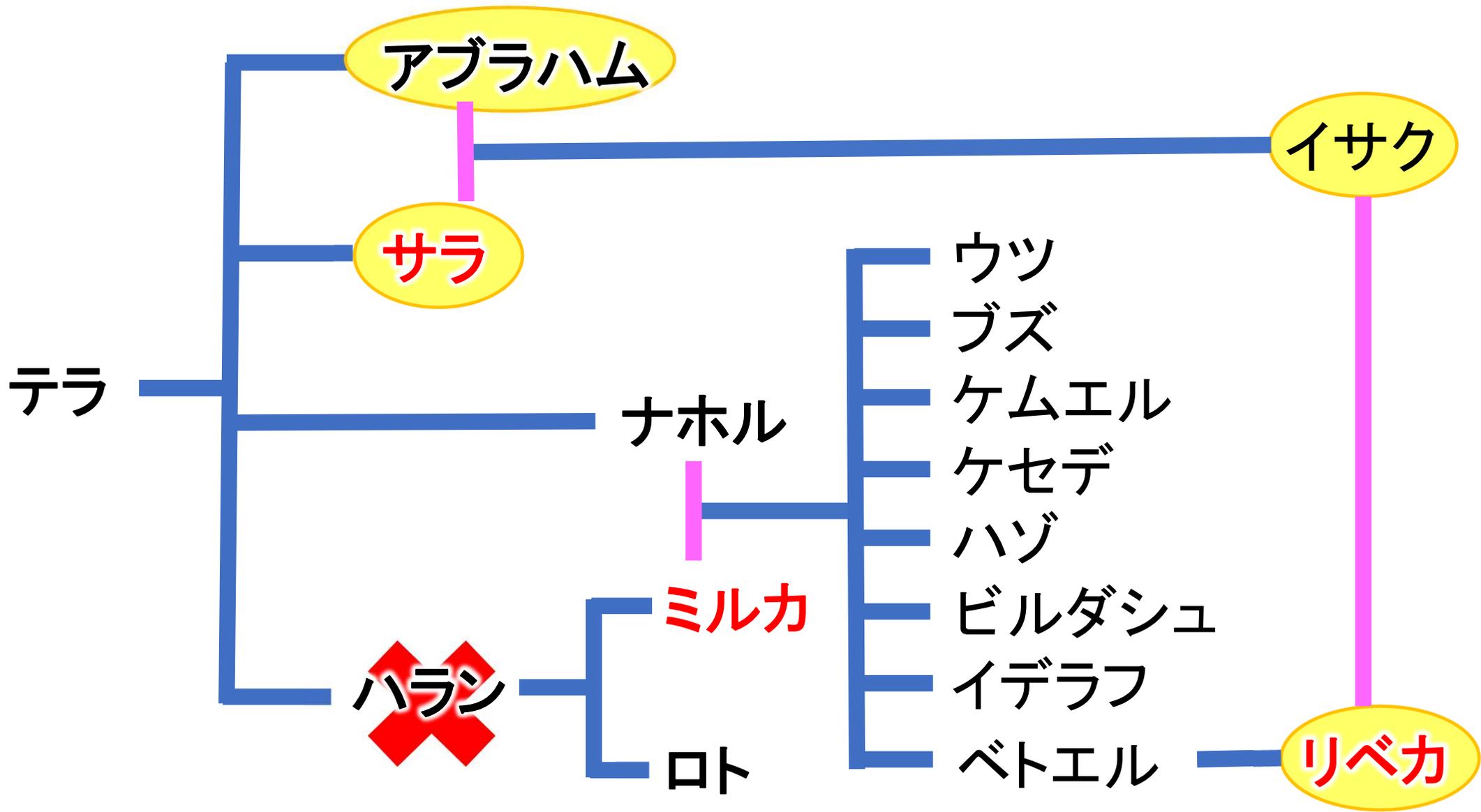
■ イサクの従兄弟ベトエルの娘リベカが現れ、
僕と、10頭のラクダにまで水を飲ませた!!

(最低でも500リットル)

■ 祈りがすぐに聞かれたのは、
主の御心と一致していたから!!

⇒ 主の御心を聴き取り、祈ることの大切さ。





【祈りを聞かれた僕の祈り】創24:27

「私の主人アブラハムの神、【主】がほめたたえられますように。主は私の主人に対する恵みとまこととお捨てにならなかった。【主】はこの私をも途中つつがなく、私の主人の兄弟の家に導かれた。」

■僕は、ベトエルの人に招かれた。

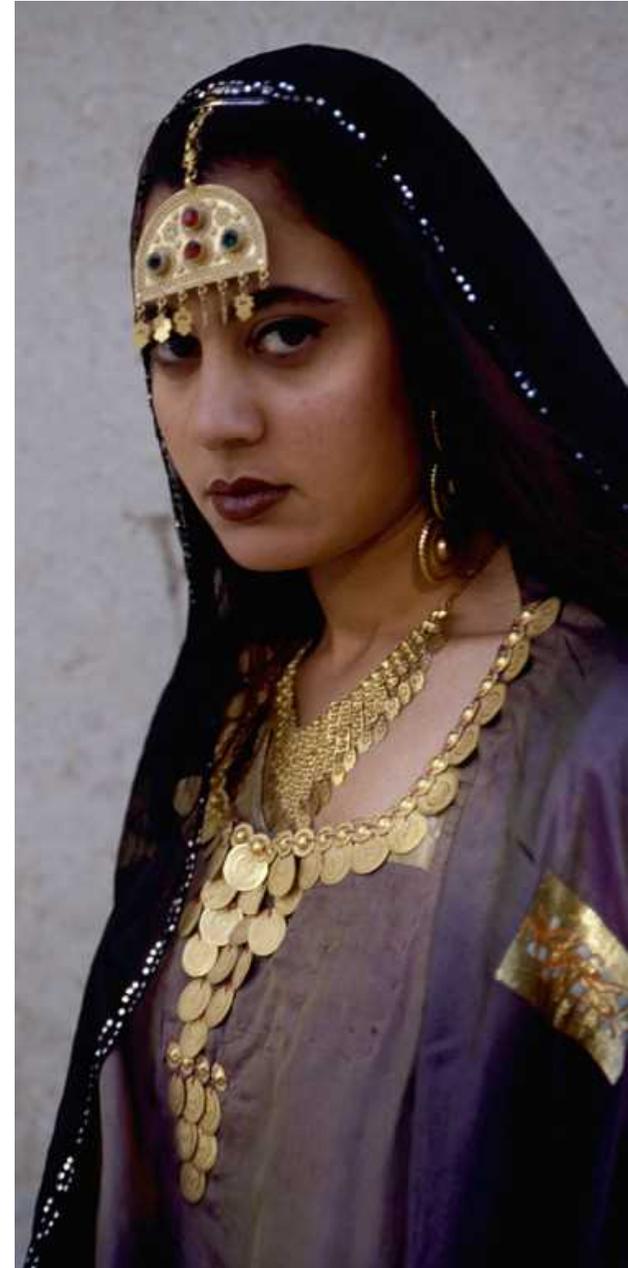
⇒贈り物の装飾品に目が行った兄ラバン

後にイサクの息子ヤコブが苦しむことに…。

■ご馳走にも手をつけず、一部始終を語る僕。

正確に再現された話が、34～48節。

⇒神に対する僕の忠実さの現れ!!



【用向きを告げる僕】 創 24:49

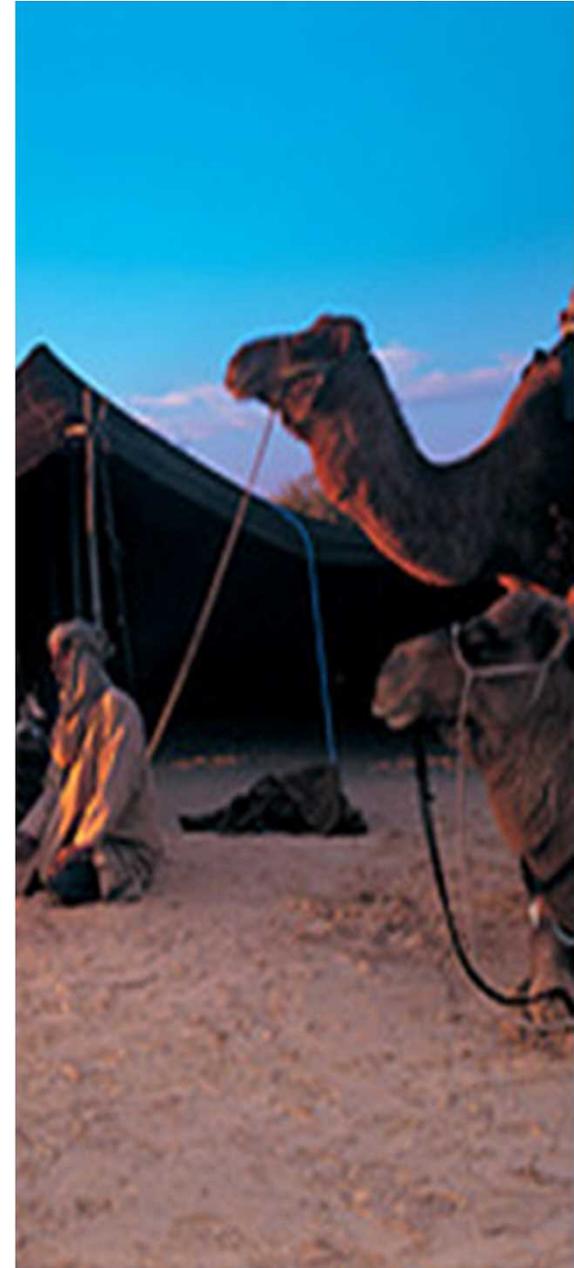
「それで今、あなたがたが私の主人に、恵みとまこととを施してくださるのなら、私にそう言ってください。そうでなければ、そうでないと私に言ってください。それによって、私は右か左に向かうことになるでしょう。」

■ リベカをイサクの嫁と認めてくれるかどうか。

最も重要な要件を、直球でたずねた僕。

■ ベトエルとラバンは承諾し、僕は主を礼拝した。

■ 持参してきた多額の花嫁料が支払われた。



【リベカの決断】

- 翌朝には、出発したいと申し出るラバン。
- 10日は滞在させたいという、兄と母だが、強い申し出に、娘リベカの意見を聞く。
- 「はい、行きます」と、即断したリベカ。

【リベカへの祝福】

「われらの妹よ。あなたは幾千万にもふえるように。
そして、あなたの子孫は敵の門を勝ち取るように。」

⇒ウルでアブラハムに告げられた神の約束が、
ハランの親族にも引き継がれていた!!



【イサクとリベカの出会い】 創 24:63～65

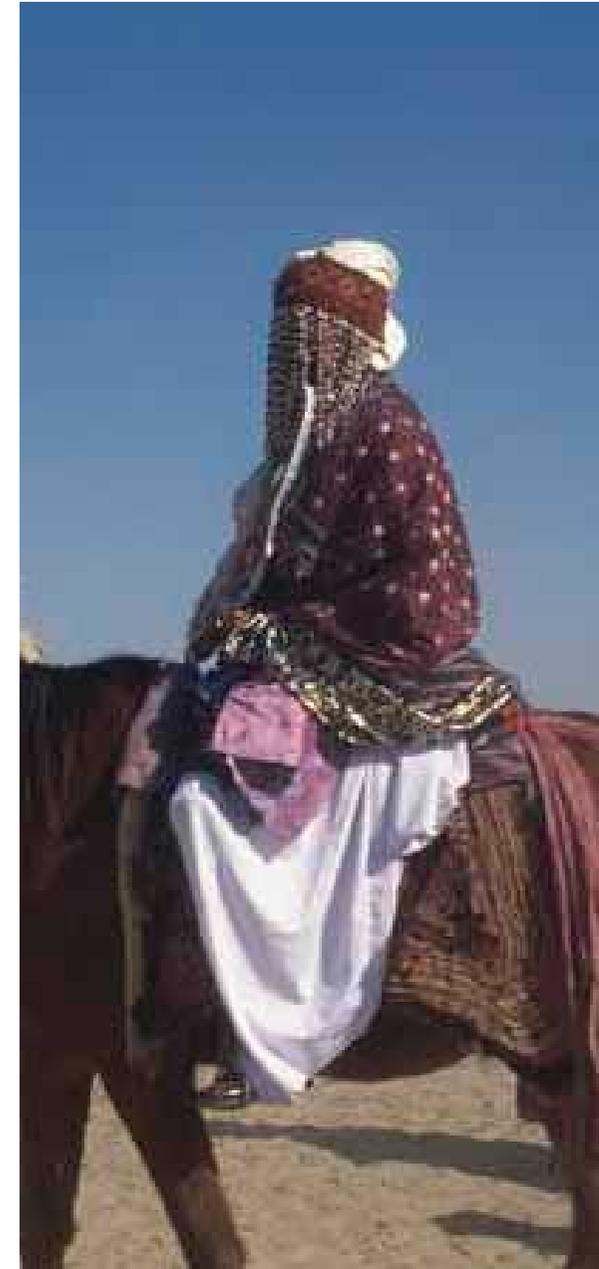
イサクは夕暮れ近く、野に散歩*に出かけた。彼がふと目を上げ、見ると、らくだが近づいて来た。

リベカも目を上げ、イサクを見ると、らくだから降り、そして、しもべに尋ねた。「野を歩いてこちらのほうに、私たちを迎えに来るあの人はだれですか。」

しもべは答えた。「あの方が私の主人です。」
そこでリベカはベールを取って身をおおった*。

* タベの祈りに出ていたと思われる。

* 花婿に嫁ぐ、花嫁としての姿。



【イサクとリベカの結婚】 創 24:66～67

しもべは自分がしてきたことを残らず
イサクに告げた。

イサクは、その母サラの天幕にリベカ
を連れて行き*、リベカをめとり、彼女は
彼の妻となった。彼は彼女を愛した。
イサクは、母のなきあと、慰めを得た。

* 通常、新婚夫婦には、

新しい住居(天幕)が用意される。

■ イサクとリベカには、亡き母サラの
天幕があてがわれた。



IV. アブラハムの子孫

創世記25:1~6



【アブラハムの子孫たち】 創25:1～6

アブラハムは、もうひとりの妻をめとった。その名はケトラといった。彼女は彼に、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミデヤン、イシュバク、シュアハを産んだ。ヨクシャンはシェバとデダンを生んだ。デダンの子孫はアシュル人とレトシム人とレウミム人であった。ミデヤンの子は、エファ、エフェル、エノク、アビダ、エルダアであって、これらはみな、ケトラの子孫であった。

* イシュマエル＋イサク＋6人 = 8人

* ミデヤンの子孫に、モーセの妻チツポラが!!

■ 「諸民族の父」となるという神の約束の成就!!



【アブラハムの子孫たち】 創25:5～6

アブラハムは自分の全財産をイサクに与えた*。
しかしアブラハムのそばめたちの子らには、アブラハムは贈り物を与え、彼の生存中に、彼らを東のほう、東方の国にやって*、自分の子イサクから遠ざけた。

* あくまで長子は、イサク。

* ヨルダン川の東側、アラビア地方へ。

■ アブラハムは、生前分与を行って、
死後の息子たちの争いを避けた。





V. アブラハムの死

創世記25:7~11



【アブラハムの死】 創 25:7～8

以上は、アブラハムの一生の年で、百七十五年であった。

アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、自分の民に加えられた。

【ヘブロン¹の墓へ】 創25:9

彼の子らイサクとイシュマエルは、彼をマクペラのほら穴に葬った。このほら穴は、マムレに面するヘテ人ツォハルの子エフロン²の畑地の中にあつた。この畑地はアブラハムがヘテ人たちから買ったもので、そこにアブラハムと妻サラとが葬られたのである。アブラハムの死後、神は彼の子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイの近くに住みついた。

■ 全うされた、アブラハムへの神の約束

創 15:15 「あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。」





V. まとめと適用

アブラハムの生涯に学ぶ
アブラハムの信仰とは？

【アブラハムの生涯で実現したことは？】

①子孫の約束 ...数えられないほど子孫を増やす。

⇒8人の息子たち。

約束の子は、イサク。その子ヤコブとエサウ。

②土地の約束 ...ナイル支流からユーフラテスまで。

⇒マクペラの墓地と畑地

③祝福の約束 ...子孫からメシアが誕生する。

⇒はるかな将来の幻でしかない!!

■アブラハムが手にしたのは、ひとり子イサクと、小さな墓地だけ。
途方もない約束の、ごくごく一部の小さなかけらのみ。

それでも、アブラハムは、主への信仰を深め、貫いた!!

【アブラハムが、その生涯で学んだこと】

- どんな危機にも、大きな過ちにも、主が一方的にアブラハムを守った。
- 25年の後に、100歳にして、約束の子イサクが与えられた。
- イサクを捧げたアブラハムの信仰を、神が認められた。
- すべての約束は、はるかな将来、必ず約束するとアブラハムは確信した。
- たとえ、この身が滅んでも、いつか必ず復活し、
すべての約束の実現を、アブラハム自身で確認する時がくると!!
- アブラハムは、平安の内に、主を信じた民のもとに加えられた。

【アブラハムが、その生涯で学んだこと】

- どんな危機にも、大きな過ちにも、主が一方的にアブラハムを守った。
- 25年の後に、100歳にして、約束の子イサクが与えられた。
- イサクを捧げたアブラハムの信仰を、神が認められた。
- すべての約束は、はるかな将来、必ず約束するとアブラハムは確信した。
- たとえ、この身が滅んでも、いつか必ず復活し、
すべての約束の実現を、アブラハム自身で確認する時がくると!!
- アブラハムは、平安の内に、主を信じた民のもとに加えられた。

【アブラハムの生涯に学ぼう】

- 私たちの生涯は、神のはるかな計画の内の、一瞬に過ぎない。
- 私たちが体験することは、実現していく神の計画の、小さな断片。
- 私が、キリストの体の小さな細胞の一つに過ぎないなら、
そこで、私の担える働きは、あまりにも小さなもの。
- アブラハムを導いた主が、私たち一人一人を導いてくださっている。
アブラハムを満たした聖霊が、私たちを満たしてくださっている。
- 神の計画の全貌を仰ぎ見、自分に与えられた小さな働きに目をとめよう。
- はるかな頂きを仰ぎ見たら、足下を見つめ、一步一步、歩んでいく。
行って、福音を告げ、信じた人と、共に信仰を育みあっていくこと。
与えられた一つの出会いを大切に、互いに励まし合い、歩んでいこう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主よ、あなたが約束(やくそく)されたことは、すべて、かならず、
完全(かんぜん)に 成就(じょうじゆ)されます。アブラハムのように、
確信(かくしん)をもって 歩(あゆ)む者(もの)と 導(みちび)いてください。
主(しゆ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」